

群 教 セ	G15 - 01
	平24.246集

地域の人との交流活動を生かした 小学校キャリア教育指導プランの作成と活用

— 自分の将来を考える意識を高める指導の充実を目指して —

長期研修員 上原 美和

《研究の概要》

本研究では、児童の自分の将来を考える意識を高める指導の充実を目指して、各学校で行われている地域の人との交流活動を生かした小学校キャリア教育指導プランを作成した。キャリア教育の視点を明らかにした交流活動を位置付けた授業実践により、児童が仕事の意義が分かること、仕事や生き方への考えを広げることにより、仕事や生き方への興味・関心を高め、自分の将来を考える意識を高めることを実践を通して明らかにした。

キーワード 【キャリア教育 小学校 交流活動 地域 指導プラン】

I 主題設定の理由

現代社会では、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等により子どもたちを取り巻く環境にも大きな変化をもたらしており、将来に夢をもち、将来就きたい仕事ははっきりしている児童生徒は少なくなっている。このような現状から、中央教育審議会では、発達段階に応じたキャリア教育の重要性が示され、学習指導要領の改訂では、自己の生き方について考えを深め、自らの将来について考える機会を設けることが明確に示された。

群馬県においては、小中学校が連携し、児童生徒の夢や希望を一貫して育成することが課題とされ、平成24年度の学校教育の指針では、既存の教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、児童生徒の発達段階に応じた体系的なキャリア教育の推進を重視している。

群馬県総合教育センターでは、「小学校におけるキャリア教育の推進に向けての調査研究」（平成21年度）において、キャリア教育について教師間に理解の差があり、考え方の共通理解が難しいことが明らかにされた。キャリア教育は必要であり、重要であると認識しながらも内容や進め方が分からないと感じている教員は多く、キャリア教育の具体的実践例の紹介や実践モデルの提示が必要とされている実態が明らかになった。また、学校現場においては、キャリア教育を新たに学習の中に入れることは負担が大きいという意見もあり、既存の学習を生かしてキャリア教育を進めることが重要である。

一方、小学校においては、自分の課題やトラブルを解決したり、折り合いを付けたりする力が弱い児童が目立ち課題になっている。これらの課題を解決する手だてとして、児童がいろいろな人の考えやよさに触れ、自分の考えを広げることが重要である。小学校では、既存の学習として、各学年、各教科・領域等において、様々な年代、仕事、考え方、キャリアをもつ人との交流活動が行われている。地域の人々の生き生きと働く姿や生き方を知ることは、児童のこれまでの自分の考えを広げるだけでなく、自分の生き方、将来を考えるきっかけとなり、職業に就き、社会で活躍する自分の姿を思い描く機会になる。

これらを踏まえ、小学校で実施されている地域の人との交流活動を生かした小学校キャリア教育指導プランを作成し活用することで、自分の将来を考える意識を高める指導を充実させたいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

キャリア教育の視点を明らかにした地域の人との交流活動を生かした小学校キャリア教育指導プランを作成し活用することで、児童が様々な仕事や生き方が分かり、仕事や生き方に対する考えを広げ、興味・関心を高めることにより自分の将来を考える意識を高める指導の充実を目指す。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 小学校キャリア教育指導プランに基づく、キャリア教育の視点で活動を見直し、ねらいを明確にした地域の人との交流活動を位置付けた授業により、児童は、仕事の意義が分かり、仕事への興味・関心を高めることができるであろう。
- 2 小学校キャリア教育指導プランに基づく、地域の人の仕事への思いや生き方を考える交流活動前後の一貫した学習により、児童は仕事や生き方に対する考えを広げ、自分の将来を考える意識が高まるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 研究構想図



(2) 地域の人との交流活動を生かした小学校キャリア教育について

小学校では、様々な交流活動が行われている。交流活動は教科・領域のねらいの達成以外にも、児童にとって、交流する人の仕事や生き方にふれるという利点がある。交流活動は、児童が、様々な年代、仕事、考え方、キャリアをもつ人へのインタビューや一緒にものづくりの体験をするなどの活動を通して、職業観や勤労観、生き方について話を聞く機会となる。それは、児童への働くこと、生きることについてのメッセージになる。講師の方に自分の仕事や生き方、思いを語ってもらうことは教科書では知ることができない様々な価値を児童が得ることになる。目の前で聞く講師の話や活動は児童の生き方のモデルとなり、児童に自分の将来を考える機会を与えることになる。

小学校で児童が交流する相手は、家族という身近な存在から地域で働く人へと広がっていく。交流活動のねらいも、遊びから、仕事、生き方へと広がっていき、そのことは、児童が自分の将来を考える一つのきっかけとなり、職業に就き、社会で活躍する自分の姿を思い描く機会をつくることになると考える。

交流活動をキャリア教育に生かすためには、二つのことが重要である。まず一つは、交流活動の内容である。教師が交流活動で身に付けたい力をはっきりさせ、これまで行われてきた交流活動をキャリア教育の視点でとらえ直すことである。どのようなことを話してもらうのか、どのような交流をするのか内容を明らかにして、事前の打ち合わせで、講師の方にねらいと内容を伝える。地域を支えている身近な人との交流活動は、児童に自分の将来について考える意識を高めてくれる。

二つ目は、交流活動前後の一貫した学習を行うことである。事前には、講師の方に聞きたいことをまとめたり、現在の仕事や生き方についての自分の考えをもたせたりする。また、事後は、聞いたことや考えたことをまとめたり、自分に生かすことを考えたりすることが重要である。

(3) 目指す児童像と各発達段階で目指す能力・態度について

本キャリア教育指導プランで目指す児童像と各発達段階での能力・態度は、以下のとおりである。
 <目指す児童像>

自分の将来に夢や希望をもち、なりたい姿を思い描ける児童

<各発達段階で目指す能力・態度>

交流活動で育成する能力・態度を国立教育政策研究所が例として示した「職業観・勤労観をはぐくむ学習プログラムの枠組み(例)」を参考にして作成した。職業観・勤労観の育成との関連が特に強いものを抜き出して、基礎的・汎用的能力の四つの能力に分類するとともに、内容を加えて作成した。

表 1 各発達段階で目指す能力・態度

		低学年	中学年	高学年
基礎的・汎用的能力	A 人間関係形成・ 社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事をする。 ・友だちと仲良く活動し、助け合う。 ・自分の考えをみんなの前で話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのよいところを認め励まし合う。 ・自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。 ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。
	B 自己理解・ 自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなもの、大切なものをもつ。 ・決められた時間やきまりを守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさや個性について考え、自分自身について関心をもつ。 ・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮する。 ・自分自身の生き方に関心をもつ。
	C 課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の準備や片付けをする。 ・自分のことは自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。 ・自分の力で課題を解決しようと努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のことを考える大切さが分かる。 ・将来の夢や希望をもち、実現に向けて努力しようとする。
	D キャリア プランニング 能力	<ul style="list-style-type: none"> ・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 ・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。 ・自分の成長を振り返り、これからはがんばる気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 ・いろいろな職業や生き方が分かる。 ・将来の夢や希望をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 ・社会生活には、いろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・自分に必要な情報を探す。 ・働くことの大切さや苦労が分かる。 ・憧れとする職業をもち、今しなければならぬことを考える。

2 小学校キャリア教育指導プランの概要

小学校キャリア教育指導プランは、図1に示すように、小学校6年間の各教科、領域で実施可能な交流活動のプランと文例集で構成されている。プランの中には、ワークシートなどが示されている。誰でも手軽に利用できるようにHTML形式で作成し、プランやワークシートなどはそのまま活用したり、書き換えて活用したりできるようにPDF形式及びワープロ形式で作成し、CD-ROMに収録した。



図1 小学校キャリア教育指導プランの構成

(1) 交流活動を生かした指導プラン一覧

表2のように1年生から6年生で26の指導プランを作成した。本プランは、「各教科や総合的な学習の時間の中で現在実施されているかまたは実施が可能な交流活動の中から、目指す児童像に近づく内容であること」「児童が様々な年代、仕事、考え方、キャリアをもつ人との交流ができること」を視点を整理し作成した。1年生から6年生の順に学習プランの内容が一目で分かるようにし、交流する人とキャリア教育の視点ではぐくみたい基礎的・汎用的能力などを示した(表2)。○はプランではぐくまれる能力を示し、関連の強いものは◎で表した。

表2 地域の人との交流活動を生かした小学校キャリア教育指導プラン一覧

年	No	題材名	交流する人	(A) 社会形成能力	(B) 人間関係形成・自己管理能力	(C) 課題対応能力	(D) キャリアプランニング能力	主な教科・領域
低学年	1	学校たんけん	学校の職員	◎	○		○	生活科
	2	お手つだい大きせん	家族			◎	◎	
	3	いきもの大すき(動物ふれあい教室)	獣医		○	◎	◎	
	4	昔のあそび	家族・お年寄り	◎	○			
	5	もうすぐ2年生	家族・学校の職員	○	◎		◎	
	6	野菜づくり	家族・地域の農家の方	○	○	◎	◎	
	7	町たんけん	地域で働く方	◎	○	◎	◎	
	8	未来に向かって 自分たんけん	家族・学校の職員	○	◎	○	◎	
中学年	9	はたらく人とわたしたちの暮らし	商店・農家・工場などで働く方	○			◎	社会科
	10	かわってきた人々の暮らし	お年寄り 地域の文化や行事にかかわる方	○			◎	
	11	地域を知ろう・地域再発見	地域で働く方 地域の文化や行事にかかわる方	◎	○	◎	◎	総合的な学習の時間
	12	安全な暮らし・住みよいくらし	消防士・警察官など	○			◎	社会科
	13	郷土に伝わる願い	お年寄り 地域の文化や行事にかかわる方	○			◎	
	14	福祉・人権	地域で福祉にかかわる方 障害者の方・養護学校の子どもたち	◎	○	◎	◎	総合的な学習の時間
	15	給食のみみつたんけん	給食センターで働く方 給食にかかわる仕事をしている方	◎	○	◎	◎	
	16	20歳の自分へ手紙を書こう	20歳になる卒業生	○	◎	○	◎	
高学年	17	わたしたちの生活と工業生産	自動車工場働く方		○		◎	社会科
	18	情報化した社会とわたしたちの生活	テレビ局働く方		○		◎	
	19	米作り	地域の農家の方	○	○	◎	◎	総合的な学習の時間
	20	幼稚園生と遊ぼう	来年度小学校に入学する園児	◎	○	○	◎	
	21	環境について考えよう	自然保護にかかわる方 尾瀬保護財団の方	◎	○	◎	◎	
	22	国際理解	ALT・青年海外協力隊の方	○	◎	◎	○	社会科
	23	戦争体験を聞いて考えよう	戦争中の生活を経験した方 資料館・博物館職員	○	○	◎		
	24	プロスポーツ選手と夢を語ろう	県内のプロスポーツ選手	○	○	◎	◎	総合的な学習の時間
	25	ようこそ先輩～働く人との交流会～	地域で働く方	○	◎	○	◎	
	26	もうすぐ中学生	中学生・中学校の先生	○	◎	○	◎	
	～中学生・先生との交流会～							

(2) 交流活動を生かした指導プランの構成

各プランには、交流活動を行う教科・領域等の学習のねらい、その交流活動で育てたいキャリア教育にかかわる能力・態度をキャリア教育の視点として掲載した。また、交流活動にかかわる情報及び事前の準備や実践する際の留意点を掲載した。さらに、キャリア教育の視点を明確にした交流活動を実践できるように、交流活動前、交流活動、交流活動後の学習の流れを具体的に示した。

a ねらい

教科・領域における単元のねらいを示した。

b キャリア教育の視点

○キャリア教育として本単元ではぐみみたい基礎的・汎用的能力を児童の具体的な姿で示した。
 (A) 人間関係形成・社会形成能力
 (B) 自己理解・自己管理能力
 (C) 課題対応能力
 (D) キャリアプランニング能力
 ○関連の強い項目は、色をつけて示した。

c 交流活動情報

交流活動で身に付けたい力、交流する人の例、交流活動の内容、質問することの例を具体的に示し、交流活動のイメージがつかめるようにした。

d 交流活動までの流れ

講師の依頼や打ち合わせのことなど、交流活動の準備から交流活動後までの教師の動きを示した。

e 留意点

交流活動設定や学習活動で具体的な動きのポイントを示し、教師の参考になるようにした。

f 活動計画例

○実施可能な学年、教科・領域を示した。
 ○交流活動が一過性のイベントにならないように、交流活動前・交流活動・交流活動後でどのような学習活動を行うのか学習の流れを示した。
 ○授業のためのワークシートなども準備した。
 ○「プラスアップ題材」として、交流活動の前や後に、学習内容を広げる題材と学習活動を示した。

(3) 文例集

文例集として交流活動の前と後に使う講師の方への依頼やお礼の文書例や書き方の注意点についてまとめた。

IV 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対 象	協力校 小学校第6学年(交流活動は、3クラス合同で実施) 81名		
単 元	総合的な学習の時間「描こう！自分の未来～ようこそ先輩 働く人との交流会～」		
実践時期	平成24年10月中旬～下旬	授業者	長期研修員 上原 美和
目 標	<p>○仕事や生き方に関心をもち、地域で働く人との交流活動を通して、仕事のことや仕事についての思い、生きていく上で大切にしている考えを知る。</p> <p>○交流活動を通して、今の自分に生かすことや夢や希望をもって自分の将来を考えることの大切さを考えることができる。</p>		
交流活動前の準備	交流する人との交渉・連絡 交流する人…地域で働く人(様々な職業の人、自分の思いをもって仕事をしている人)		
実践の内容	時間	過程	授業のねらい
	1 (45分)	交流活動前 なぜ、仕事をするの？	「なぜ、仕事をするのか」を考え、交流する人の仕事について関心をもつことができる。
	2・3 (45分×2)	交流活動 ようこそ先輩 働く人との交流会	仕事の内容や仕事についての思いを知り、話を聞いて自分が考えたことや心に残ったことを観点をもとにまとめることができる。
	4 (45分)	交流活動後 ○○さんを紹介する ポスターをつくらう	仕事や仕事についての思い、仕事を選んだ理由、生きていく上で大切にしていることなどをまとめ、自分が手本としたいことを考えることができる。
	5 (45分)	交流活動後 「ようこそ先輩」で学んだことをまとめよう	働く人の思いや考えを知ること、仕事について考えを広げ、自分の将来を考えることの大切さに気付く。



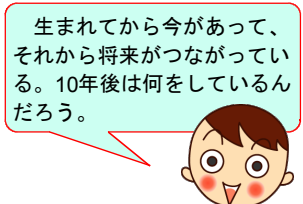
2 検証計画


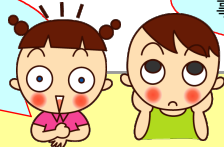
検証の観点	検証の方法
・小学校キャリア教育指導プランに基づく、キャリア教育の視点で活動を見直し、ねらいを明確にした地域の人との交流活動を位置付けた授業により、児童は、仕事の意義を知り、仕事への興味・関心を高めることができたか。	・児童へのアンケート分析 ・授業分析 ・ワークシート分析
・小学校キャリア教育指導プランに基づく、地域の人の仕事への思いや生き方を考える交流活動前後の一貫した学習により、児童は仕事や生き方に対する考えを広げ、自分の将来を考える意識が高まったか。	・児童へのアンケート分析 ・授業分析 ・ワークシート分析 ・教師への聞き取り

3 授業実践

交流活動前

1/5時間

【ねらい】「なぜ、仕事をするのか」を考え、交流する人の仕事について関心をもつことができる。		
主な学習活動	指導・支援	児童の取組
○将来の自分を思い描く学習の始まりであることをつかむ。	・将来、仕事をする自分いることをつかませるために人生年表を提示する。	・人生年表を見てこれまでの自分とこれからの未来がつながっていることに興味をもって聞いていた。
		
○「なぜ仕事をするのか」を考え、発表する。	・実態を把握するために事前にアンケートをとっておく。	・「なぜ仕事をするのか」の理由を発表することで、仕事の様々な価値を子ども同士で共有することができた。

<p>「なぜ、仕事をするのか」考えよう。</p>	<p>理由を書かせることによって仕事のイメージをふくらませる。</p>	<p><児童から出された意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金がないと食べ物や服が買えないから。 ・お金がないと生きていけないから。 ・家族を養うため。 ・家族に恩返しをするため。 ・自分もいろいろなことを学べるから。 ・いろいろな経験ができるから。 
<ul style="list-style-type: none"> ・家族のため ・自分のためになるから ・お金をかせぐため ・世の中のためになるから ・その他 		<p>働いている人に「なぜ、仕事をするのか」聞いたらいいんじゃない。</p> <p>どうして、その仕事を選んだのかな。</p> 
<p>○交流会「ようこそ先輩」を行うことを知り、交流会で聞きたいことを考える。</p>	<p>・交流する人の紹介プリントを配る。</p>	<p><児童の振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだものは同じでも理由は人それぞれでした。 ・みんなの意見を聞くことができてよかった。交流会の時に質問をしたいと思います。 ・いろいろな職業の人がどんな思いで仕事をしているのか気になりました。 ・質問したいことはたくさんいろいろあった。どんな答えがかえってくるのか楽しみです。 ・自分の将来のことをもっと考えたいと思いました。
<p>○本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動に意欲的に取り組めるようにする。 		

交流活動 「ようこそ先輩 働く人との交流会」 2・3/5時

<p>【ねらい】 仕事の内容や仕事についての思いを知り、話を聞いて自分が考えたことや心に残ったことを観点をもとにまとめることができる。</p>		
<p>主な学習活動</p> <p>○本時のめあてをつかむ。</p> <p>(開会行事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの言葉 ・あいさつ <p>(今日のめあてと内容の確認)</p>	<p>指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の流れが分かるように、拡大したプログラムを掲示しておく。 <p>働く人から、仕事のことや仕事についての思いを聞こう。</p>	<p>児童の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の時の支度で入場してきた講師の姿に児童は、目を輝かせていた。  
<p>○全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の方からの話 <p><講師の方の職業></p> <p>建築業・幼稚園の先生・うどん職人・消防士・小学校の先生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が仕事のイメージがもちやすいように仕事で使っている道具や服装、仕事の様子を画像で用意してもらい、提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心にワークシートにメモをしながら話を聞いていた。  
<p>○グループごとに交流会を行う。</p> <p>(閉会行事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼の言葉 ・おわりの言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち解けた雰囲気で行えるように講師と子どもの距離を近くする。 ・児童が講師の話を理解しているかを確認しながら交流会を進める。 	<p>仕事の図面を見せてもらったり、消防服を着せてもらったりして仕事のことや大変さも分かったよ。</p>   
<p>○交流会で学んだことや心に残ったことをまとめる。</p> <p>児童に考えさせたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「なぜ仕事をするのか」を聞いて考えたこと ②「仕事のやりがい」を聞いて考えたこと ③その他(学んだこと・心に残ったこと) 		<p><児童の振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来〇〇さんのようにやりがいを感じられる仕事がしたいです。 ・仕事をするのは大変だけど、やりがいや楽しみ、責任感もあるんだと思いました。 ・私も将来、仕事について、お客さんから「ありがとう。」「この仕事ってすごいね。」など言ってもらえるとすごくうれしくなって、気持ちがあたたかくなると思いました。仕事は、すごくいいものだと思えました。

交流活動後

4/5時間

交流会のグループごとに授業を行う。

【ねらい】仕事や仕事についての思い、仕事を選んだ理由、生きていく上で大切にしていることなどをまとめ、自分が手本としたいことを考えることができる。

主な学習活動	指導・支援	児童の取組
○本時のめあてをつかむ。 交流した人を紹介するポスターをつくろう。	・交流した人の画像を提示し、児童が交流会を想起しやすくする。	・交流会のメモを見て、友だちと確認しながら学習に取り組もうとしていた。
○紹介の観点ごとにまとめる。	・正確に書くために友だちと話し合いながらまとめさせる。	・他のグループにも声をかけて、ワークシートを持ち寄って内容について確認していた。
○「交流した方から学んだこと」「自分がお手本にしたいこと」を考え、発表する。	・書けない児童には、ポスターの言葉から選んで書くことを助言する。 ・理由も大切にしながら発表を聞くようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><消防士の方と交流した児童の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事は人のためにやる。 ・思いやりをもとう。 ・やれることはなんでもやってみる。 ・消防士がいることの大切さ。 </div>
○本時の振り返りをする。	・自分と異なる意見やなるほどと思ったことを書くようにする。	・交流した人が同じでも仕事や生き方のことなどいろいろな視点からの意見を書くことができた。



交流活動後

5/5時間

クラスごとに授業を行う。

【ねらい】働く人の思いや考えを知ることで、仕事について考えを広げ、自分の将来を考えることの大切さに気付く。

主な学習活動	指導・支援	児童の取組
○本時のめあてをつかむ。 「ようこそ先輩」で学んだことをまとめよう。	・交流した方の画像を提示し、児童が交流会を想起しやすくする。	・交流した5人の方の名前と仕事をいっしょに確認した。
○交流した講師5人について、発表会を行う。 ・「学んだこと、自分がお手本にしたいこと」とその理由について発表する。	・発表内容は、キーワードとして黒板に掲示する。 ・最初のアンケートから、考えの広がり意識させるように黒板にキーワードを掲示する。	・交流した人で様々な意見が発表されることに興味深く聞いていた。
○「ようこそ先輩」の学習から学んだことについて考える。	・自分の考えの広がりや変化が実感できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><児童の意見> (交流した方の仕事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きがいのために仕事をする。(教師) ・うそをつかない。(うどん職人) ・仕事をひきつぐ。(建築業) ・仕事は人のためにやる。(消防士) ・「やりたい」と思ったことを自分で見つけ、努力し夢を叶える。(幼稚園の先生) </div>
○「ようこそ先輩」の学習全体を振り返る。	・人生年表で、今と自分の将来がつながっていることを確認し、これからの学習につなげる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>仕事は家族のためやお金をかせぐためだけだと思っていました。また、ただ大変なだけだと思っていました。</p> <p>今は、人のため社会のためだと思っています。一つ一つの仕事は、なくてはならないものだと思います。そして、仕事をやることにより、やりがいを感じ、大切さが分かってくのだと思います。</p> </div>
		<ul style="list-style-type: none"> ・第1時で書いたワークシートと今の自分の考えを比較して書けた。 ・仕事についての考えの広がりや変化を感じてまとめることができた。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>最初の頃は考えられなかったこともたくさん考えられました。自分の将来を考えるのが楽しみになりました。</p> </div>



V 研究の結果と考察

1 小学校キャリア教育指導プランに基づく、キャリア教育の視点で活動を見直し、ねらいを明確にした地域の人との交流活動を位置付けた授業により、児童は、仕事の意義を知り、仕事への興味・関心を高めることができたか。

事前のアンケート調査によると「仕事について、おうちの人や大人から話を聞いたことがありますか」という設問に対しての回答は、半数以上が「聞いたことがない」で、「聞いたことがある」は45%だった。聞いた話の内容は、半数が仕事の大変さであった。

「なぜ、仕事をすると思いますか」では、実践前は「家族のため」「お金をかせぐため」という回答が大半を占めていた。しかし、授業実践後は、他のそれぞれの項目において数値が増加し、特に「社会のためになるから」と「自分のためになるから」は大幅に増加した(図2)。

これらの結果から、仕事についての話題は、児童の身近にあまりないことと、話を聞いたことがある児童も仕事のイメージは、自分を生かすプラスのイメージは少なかったことが分かる。児童は、様々な人との交流によって、仕事や仕事への思いを知り、仕事に対するいろいろな価値を知ることができた。また、児童はこれまでもっていなかった仕事の「自分のためになるから」や「社会の中で自分を生かす」という新たな考えをもつことができた。ワークシートからは仕事や働くことについて、児童の興味・関心が高まった様子や大人になって働く自分の姿を楽しみに思う様子が見取れた。

これらのことから、指導プランに基づいた授業により、児童は新たな仕事への思いを知り、仕事についての興味・関心を高め、仕事への様々な考えをもつことができた。また、仕事の意義を知ることによって、自分の将来を希望をもって考える意欲を高めることができたと考える。

2 小学校キャリア教育指導プランに基づく、地域の人の仕事への思いや生き方を考える交流活動前後の一貫した学習により、児童は仕事や生き方に対する考えを広げ、自分の将来を考える意識が高まったか。

事前のアンケート調査によると、「夢をかなえるためには、どうすることが大切だと思いますか。」では、「あきらめない気持ちをもつ」という回答が71%と最も高い数字であった。自分の気持ちのもち方が将来の自分の実現にとって重要であると考えた児童が多く、「勉強をがんばる」や「自分の良い所や直したい所を考える」など今の自分の生活を充実させることが将来につながると考える児童は全体的に少なかった。

授業実践後、夢をかなえるために大切なこととして、多くの項目の数値が増加した(次頁図3)。児童は、地域の働く人から話を聞いたことで、思えばかなうといった抽象的な考えから夢をかなえるための姿が少し具体的になったと考えられる。「いろいろなことに挑戦する」は、交流したほとんどの方が児童に話していたことであった。「自分の良いところや直したい所を考える」は、交流した方

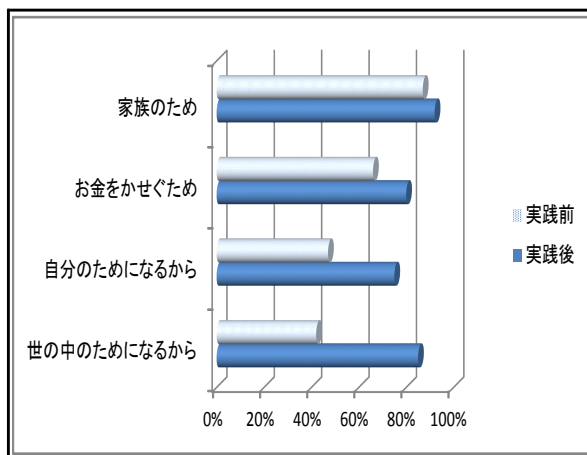


図2 「なぜ仕事をするのか」について

〈児童のワークシートの記述から〉

- ・「子どもが好きだから」というだけでは幼稚園の先生はできない。仕事は、好きだけではできないということも学んだ。
- ・仕事は自分や家族、社会、世の中の人のためになっていることが分かった。交流会で仕事のイメージが大きく変わった。仕事ってすごいなと思った。
- ・仕事は大変なイメージがとても強かったけど、5人の話を聞いたまとめの時は、「好きだからやっている」というのが伝わってきた。私も早く好きな仕事に就きたいと思った。
- ・仕事をするってことは、まるで大人の学校に行っているように思った。私はこれから一生懸命努力してとても素晴らしい大人になりたい。

が自分の得意なことや興味をもっていたことから 仕事を選んだ話を聞いて、児童が自分を見つめ直すことの大切さを感じたからであると考えられる。しかし、逆に講師の方が話にあげている項目は数値が下がった。児童は、交流した方の話をよく聞き、自分の将来にとって大切なことを考えたことがグラフからも分かる。ワークシートからは、児童の考えの変化や広がりを読み取れる。これまであまり考えたことがない自分の未来に期待をし、夢や希望をもっている様子が読み取れる。教師からの聞き取りによると働く人からの話は実感を伴わないので抽象的になってしまうことがある。しかし、児童の価値観と異なる意外性のある考え方にふれることが多く見られた。これまであまりなかった将来を考える機会を児童に与えることになったという意見であった。

これらのことから、指導プランに基づいた授業で、児童は生き生きと働く大人と交流することにより、大人になって働く自分の姿を思い描くモデルを得ることができた。そして、自分の将来を考える意識を高め、夢や希望をもって仕事や生き方など自分の将来について考えることができたと考える。

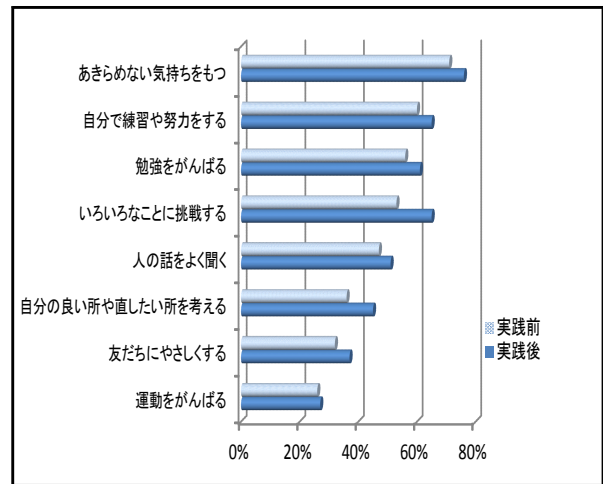


図3 夢をかなえるために大切なこと

〈児童のワークシートの記述から〉

- ・この学習がなかったら、自分の将来を考えたり、5人の仕事をしている人の話も聞けなかったと思う。最初の頃には考えられなかったこともたくさん考えられた。
- ・今までは、自分の将来を考えることがなかったので、考えるのもいいなと思った。
- ・社会の人のためになる仕事をして他の人から自分がいてよかったと思ってもらえるような生き方をしたい。
- ・どういう未来を描いていこうと考えることができよかった。自分の未来を描いていくのが楽しみになった。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 児童は、交流活動において、働く人の話からたくさんの価値を得ようとしていることが分かった。児童に考えさせたいことを明らかにして、交流前と交流後の考えをまとめさせたことにより、児童は、交流活動を自分で振り返り、自分の価値観の広がりを実感することができた。
- 複数の人との交流により、児童は仕事や生き方の思いについて様々な考えを得ることができた。
- 地域の人との交流活動を充実させたことにより、児童は、働くことの意義を知ることができ、自分の将来を考えようとする意欲を高めることができた。

2 課題

- 交流活動におけるキャリア教育の視点を明らかにした実践プランにしていくために、交流活動で考えさせたい内容を精選しプランを改善していきたい。
- 児童が様々な人との交流から学んだことや考えたことを積み重ねていくことができるような工夫が必要である。

〈参考文献〉

- ・文部科学省 「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」 教育出版 (2011)
- ・国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のススメ」 東京書籍 (2012)